ISSN 0451-3177

神奈川県公衆衛生学会誌

第６０号

神奈川県公衆衛生協会

２０１４

平成26年度集団フッ化物洗口実施後のフォローアップ調査（幼児）結果

○荒川　浩久[1)]，宋　文群[1)]，石黒　梓[1)]，中向井　政子[1) 2)]，石田　直子[1) 2)]
1）神奈川歯科大学大学院　口腔衛生学講座，2）神奈川歯科大学短期大学部　歯科衛生学科

【目的】市の事業として集団フッ化物洗口プログラムを5年以上継続実施している静岡県伊豆の国市韮山地区の保育園・幼稚園（以下、園とする）児、小学生・中学生を対象に、口腔衛生行動がおろそかになっていないか、副作用が出現していないかを確認するために、歯科保健の状況把握と安全性確認の質問紙調査を実施した。今回は園児の結果について報告する。

【調査対象・方法】本研究は伊豆の国市教育委員会、静岡県東部健康福祉センター、田方歯科医師会の協力によって、神奈川歯科大学研究倫理審査委員会の承認（第268番）のもとに、厚生労働科学研究「歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究（H24－循環器等（歯）－一般－001）」として実施した。調査協力願いの文書には、調査への協力は任意であること、回答されなくても不利益が及ぶことはないこと、個人が特定できる情報は公表しないこと等を記載し、倫理的配慮を徹底した。教育委員会を通じて、2014年7月7日に対象である3園の307名の園児に質問紙を配布し、家庭において保護者が記入し、7月18日の期限までに235名（回収率76.5%）が提出した。当該地区では薬剤師が各園のフッ化物洗口液を作製して、週5回の洗口日に園に届け、洗口終了後に回収し次回に備えるという方式を採用している。

教育委員会に回収された質問紙は当講座に持ち帰り、PCに入力後JMP®9（SAS社）にて集計分析した。質問の内容は、甘飲食の嗜好、1日の間食回数、1日の歯磨き回数、フッ化物配合歯磨剤の使用状況（自己申告）、歯磨剤の使用量、歯科医院でのフッ化物塗布の状況、園でのフッ化物洗口実施の認知、フッ化物洗口によると思われる変化の有無（歯磨き習慣、歯の白濁、口内炎等の発生）であった。

【結果および考察】甘飲食の嗜好は「好き」71.5%、「普通」27.2%、「嫌い」1.3%で、1日の間食回数「0回」6.0%、「1回」69.8%、「2回」20.9%。「3回以上」3.4%であり、特に間食回数が多いとい結果ではなかった。1日の歯磨き回数は「0回」0%、「1回」19.2%、「2回」46.8%、「3回以上」34.0%であり、平成23年の歯科疾患実態調査の5～9歳の「3回以上」27.6%と比較して良好であった。フッ化物配合歯磨剤の使用状況（自己申告）は「フッ化物配合歯磨剤を使用」73.1%、「フッ化物配合かどうか不明だが歯磨剤を使用」9.0%、「フッ化物無配合歯磨剤を使用」2.1%、「歯磨剤非使用」15.8%であり、歯磨剤を使用している者における使用量は「刷毛部の1/3未満」25.9%、「1/3～2/3」51.3%、「2/3以上」9.1%、「不明」13.8%であり、1/3未満の少量使用は少なかった。歯科医院でのフッ化物塗布の状況は「定期的に受けている」39.3%、「受けたことがある」42.7%、「受けたことがない」18.0%であり、平成23年の歯科疾患実態調査の4歳と5歳の「受けたことがない」の30.4%と23.3%と比較して良好であった。

園におけるフッ化物洗口実施の認知は「認識している」が96.1%とほとんどであった。フッ化物洗口の実施によって「特に子どもに変化はみられない」と回答したのが81.7%であった。残る42名（18.3%）が何らかの変化を認めていた。選択された変化（複数選択）のうち、「歯磨き習慣が良くなった」が30名（42名中71.4%）であったのに対し、「歯磨き習慣が悪くなった」は0名であった。また「歯の光沢が増した」は2名（42名中4.8%）であったのに対し、「歯が白濁した」は0名であった。「口内炎ができにくくなった」は5名（42名中11.9%）であったのに対し、「口内炎ができやすくなった」は3名（42名中7.1%）であった。

「その他の変化」を記載した者は8名（42名中19.0%）で、その5名が肯定的な変化で3名が否定的な変化（実際には変化ではなく意見）を記載した。肯定的なものは「むし歯ができない」「むし歯になりにくい」「むし歯がない」「歯と口のトラブルがなくなった」「むし歯になりそうな白濁の進行が停止している」であり、否定的なものは「フッ素洗口液が好きではない」「フッ素は身体によくないと言われている」「フッ素使用に反対」であった。

フッ化物洗口を開始すると、フッ化物に頼りすぎて身についた口腔衛生習慣がおろそかになったり、歯のフッ素症が生じたりする等の副作用が出現するという意見もある。今回の調査の結果から言えることは、園児の保護者は園でフッ化物洗口を実施していることをほとんどが認識しており、フッ化物洗口によって、間食回数が増える、歯磨き習慣がおろそかになる、歯のフッ素症が生じる、口内炎などの粘膜への副作用が生じるという有害性は認めなかった。最後に、今回の質問紙調査について質問、意見やトラブルは一切なかったことを付記する。